



# 構造改革の後押し等地域農業への貢献

中間農業地域



キーワード

構造改革の後押し等  
地域農業への貢献

こそしかみぐみのうちほぜんかい (しまねけんまつえし)

## 古曾志上組農地保全会 (島根県松江市)

- 松江市街地から西へ約5kmに位置する18戸の集落で水稻を中心とした農業が行われている。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策(現:多面的機能支払交付金)に取り組んでおり、以前は個人や土地改良区が行っていた水路、農道、ため池の保全作業を保全会が行い、担い手農家の労力負担を軽減し、地域農業の振興と活性に寄与。
- 農地の大区画化・汎用化を図り、併せて地域内の大規模経営体への100%の農地集積を目指し、令和2年度からほ場整備を実施中。

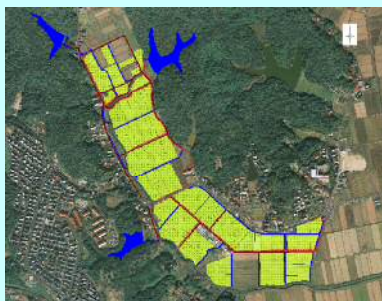
### 【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積21.0ha (田20.2ha、畑0.8ha)
- ・資源量 水路5.1km 農道3.3km ため池3箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会
- ・交付金 約100万円(R2)

農地維持支払  
資源向上支払(共同)

### 活動開始前の状況や課題

- 平成2年に、標準30a区画のほ場整備が完了。
- 本活動開始前は、年1回の水路の泥上げ、河川、ため池の草刈を土地改良区で実施し、農道の草刈は各農業者が行っていた。しかし、高齢化等により耕作を担い手農家へ委託する人が増え、労力負担が大きくなり、担い手農家への農地集積が阻害されていた。



活動箇所

### 取組内容



- 水路、農道、ため池の草刈、水路、農道側溝の泥上げ、農道路面の維持作業の実施。



- 草刈の省力化と景観保全のため「芝桜」「松葉ボタン」の畦畔への植栽・管理。



- 在来種である彼岸花の育成・管理。



道路法面、畦畔の草刈



芝桜の植栽

### 取組の効果

- 非農家が中心となって行う、水路・農道・ため池の保全作業が担い手農家の負担軽減となり、地域内の大規模経営体への100%の農地集積を目指して「ほ場整備」を実施中。
- 地域住民が参加しやすい植栽活動等に取り組むことで、共同活動への関心が高まった。
- 春は芝桜と松葉ボタン、秋には彼岸花とそばの花で地域内外の人の目を楽しませている。



ヒガンバナとそば畑



芝桜



ながたしゅうらくのうち・みずほぜんかんりかつどうそしき（しまねけんやすぎし）

### 永田集落農地・水保全管理活動組織（島根県安来市）

- 本組織は安来市の最南端、比田地区に位置し、約20a区画の農地で水稻を中心に営農が行われている。
- 営農する農家の高齢化が進み畦畔等の草刈作業が困難になる中、草刈作業の省力化を図ることを目的として本事業を活用し取組を開始。
- 水田畦畔にシバザクラを植栽し、長大かつ急傾斜な農地法面の草刈作業が省力化され、耕作放棄地の未然防止、棚田景観の保全に大きく貢献している。また、この景観を活かしたイベント「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催、地域の活性化に結びつけている。

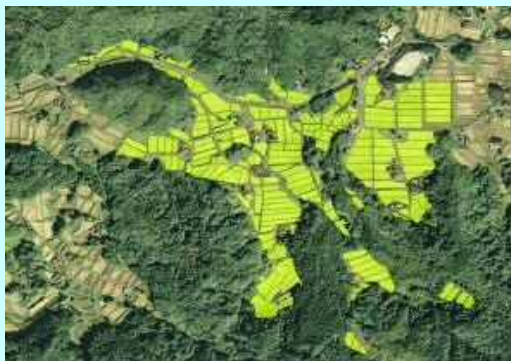
#### 【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積26.7ha  
（田26.4ha、畑0.3ha）
- ・資源量 水路3.5km、農道1.1km、  
ため池1箇所
- ・主な構成員 農業者、非農業者、  
自治会、小学校等
- ・交付金 約235万円（R2）

農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化）

#### 活動開始前の状況や課題

- 昭和63年にほ場整備が完了し、約20a区画で営農が行われている。
- 草刈りや水路泥上げ等は従来から各農家で実施していたが、高齢化が進行する中、山間地の棚田特有の急傾斜で長大な畦畔の草刈作業が重労働かつ危険な状況であり、離農や耕作放棄が懸念されていた。



活動対象区域

#### 取組内容



○草刈作業の省力化、農村景観の更なる向上を目指し、農地法面へシバザクラを植栽。



○シバザクラの植栽活動は農業者が中心だったが、現在は非農業者や地元小学校の児童も参加する地域全体の共同活動として展開。



○地元にそびえ立ち伝説が語り継がれる「猿隠山」にちなみ、毎春「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。県内外へPR活動展開し、関係人口の増加と地域活性化に取り組む。



植栽活動



小学校との連携

#### 取組の効果

- シバザクラの植栽により草刈作業が省力化され、耕作放棄地の未然防止や棚田の景観保全につながったほか、防草効果でカメムシ等による被害米が減少し、農薬を節減する栽培ができ、ブランド米の出荷に結びついている。
- 共同作業として女性や子供が参加しやすい取組が進められ、地域住民同士の協調性や共助の意識が醸成された。
- シバザクラ祭りの来客者数は3,000人を超え、都市部からも多くの鑑賞者が訪れるなど関係人口が増加。マスコミからの取材もあるなど、地域活性化につながっている。



棚田を彩るシバザクラ



シバザクラ祭りの様子





くまちいき あぐりねっと (しまねけんおおちぐんみさとちょう)

### 熊見地域アグリネット (島根県邑智郡美郷町)

- 美郷町の東部に位置する集落で水稻を中心とした農業が行われている。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策(現：多面的機能支払交付金)に取り組んでおり、取り組み前は個人で行っていた農地周りや水路、農道の保管理作業、鳥獣害防止対策を共同で行うようになり、地域住民の一体感が深まった。
- 高齢化や農家数の減少により発生した50aの休耕田を活用してヒマワリや菜の花を栽培することで、美しい農村風景が生まれ、多くの見学者やカメラマン等で集落が賑い、活気が生まれた。地元連合自治会が搾油業者に委託し、ヒマワリや菜の花の種から食用植物油を製造・販売している。

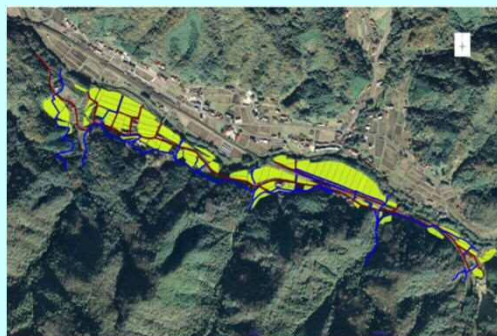
#### 【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積10ha (田9.6ha、畑0.4ha)
- ・資源量 水路4.7km 農道3.0km
- ・主な構成員 農業者、非農業者
- ・交付金 約47万円(R2)

農地維持支払  
資源向上支払(共同)

#### 活動開始前の状況や課題

- 平成元年に標準20a区画のほ場整備が完了。
- 本活動取組前は、農地周りの草刈りや水路の泥上げや補修等を個人で行っていた。しかし、高齢化や人口減少により個人での農地や水路等の保管理が困難となり、耕作放棄地の発生が懸念されるようになっていた。



活動対象区域

#### 取組内容



○農地周りや水路、農道法面の草刈り、水路の泥上げ、農道路面の維持作業。



○畦畔の補修、簡易な水路の修繕(目地詰め、嵩上げ)作業。



○鳥獣害防止対策として、イノシシ侵入防止柵や捕獲檻の設置。

○景観保全として、休耕田にヒマワリや菜の花を植栽。



水路の泥上げ



水路の嵩上げ



イノシシ捕獲檻設置



休耕田の活用

#### 取組の効果

- 集落みんなで農地等の地域資源を守ろうという意識が強くなり、地域住民の一体感が高まった。
- 鳥獣害防止対策で捕獲したイノシシを町に引き渡し、町が推進する「おおち山くじら」のジビエ利用促進に貢献。
- ヒマワリ等の種から搾った植物油「銀の香」がふるさと納税の返礼品に採用。
- 休耕田を活用した景観保全を行ったことにより、満開時にはSNS等で紹介すると町外から多くの人を訪れ、集落が賑やかになり活気が出てきた。



銀の香



カメラマン



# 農業用施設の機能増進

山間農業地域



キーワード

農業用施設の機能増進

やさかちょうのうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうてい(しまねけんはまだし)

## 弥栄町農地・水・環境保全管理協定（島根県浜田市）

- 本地域は浜田市街地から25km離れた中国山地に位置し、水稻を中心とした農業を行っている。
- 平成19年度より旧村単位で本事業に取り組む広域活動組織。26自治会を12地区にまとめて活動を実施。
- 土木経験者を中心に5つの「作業班」を編成し、営農組織との連携を取りながら直営施工による農業用施設の補修等を実施。「作業班」の活動範囲は決めずに、重機を所有している、左官作業が得意といった班ごとの特性を活かしながら地域全体で活動。

### 【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積308.70ha  
(田283.4ha、畑23.4ha、草地2.0ha)
- ・資源量 水路182.8km  
農道185.8km  
ため池16箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会等
- ・交付金 約1,756万円(R2)

農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 弥栄町内のほ場整備率は約80%と高く、集落営農にも積極的に取り組まれている地域。
- 高齢化率は40%を超え、人口減少も進み、農村環境の保全が危ぶまれている状況。
- ほ場整備後50年近くが経過している地区もあり、農業用施設の老朽化が進み、用水路の漏水などにより、耕作に支障が出ている。



弥栄町の風景

### 取組内容

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



- 営農組織との連携が強く、老朽化した農業用施設の補修に積極的に取り組んでいる。
- 土木経験者を中心に「作業班」を5班編成し(1班を4~5名)、各自治会から要望のあった箇所の補修を直営施工で実施。
- 各作業班がそれぞれの得意分野を活かし、地区ごとではなく、地域全体で横断的に活動を実施。

11 住み続けられるまちづくりを



水路の嵩上げ

水路の更新

### 取組の効果

- 農業用施設の不具合箇所について、自分たちで協議し、解消したことで、営農作業の効率が上がるとともに、「自分たちの手で農地を守っている」という意識から遊休農用地発生防止にも役立っている。
- 農業用施設の長寿命化を図ることによって、営農意力の向上など、営農組織の活性化になっている。
- 作業班の取り組みを行うことにより、自分たちの力で農業用施設を保守していく意識が高まり、さらに技術も身につけてきている。



小学生との生き物調査



都市部の消費者との交流





あといちかんきょうほぜんくみあい(しまねけんごうつし)  
跡市環境保全組合 (島根県江津市)

- 江津市の市街地より南に6km程離れた山間農業地域で、農地が点在しており、水稻を主として個人で農業を行っている。
- 平成19年度より「農地を守る」ことを目的として、4町内20集落で形成されるコミュニティセンター単位で跡市環境保全組合を設立。
- 農村の伝統文化を次世代へ継承する活動として花田植えや、農地保全の必要性についてワークショップを行うなど、農村コミュニティの強化を図っている。
- 平成25年8月の豪雨災害を契機に、被災時の報告体制の整備に加えて、被災箇所の応急措置に本交付金が活用できることを地域住民に周知するなど、地域全体で迅速な災害対応ができる体制づくりに努めている。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積48.1ha (田44.0ha、畑4.1ha)
  - ・資源量 水路18.0km 農道46.1km ため池1箇所
  - ・主な構成員 農業者、自治会、女性会等
  - ・交付金 約320万円(R2)
- 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、営農条件のよい農地を中心に、昭和50年代半ばから平成10年代半ばまでに4回ほ場整備を実施。
- 活動開始前から跡市地域コミュニティ交流センター単位のイベントは多く行われていたが、農地が点在していることもあり「農地は個人で守る」という意識が強かった。



活動対象区域

取組内容



○農村の伝統文化を次世代へ継承する活動として花田植えを実施。



○跡市地域の将来を農地保全の面から考える機会として地域住民等によるワークショップを開催。



○被災時の報告体制の整備など、迅速な災害対応ができる体制づくり。



花田植え(練習)



ワークショップ

取組の効果

- 花田植えの活動を通じた農村コミュニティの強化だけでなく、地域内外から100人以上の見学者が訪れ、地域の活性化にもつながっている。
- ワークショップや共同活動を行うことにより、「農地は個人で守る」という意識から「地域全体で農地を守る」という意識へと醸成された。
- 集落代表等が平面図に被災箇所を記載し、相互に状況確認をすることで迅速な応急対応が可能となり、営農を継続することができた。加えて行政機関への被害報告も円滑に行うことが可能となった。



花田植え



災害時の応急措置